

# モノづくり支える熟練の技 **金型マスター**

2017年、日本金型工業会は金型製作に優れる技術者を認定する「金型マスター認定制度」を開始し、同年に第一期生を認定した。19年には第二期生が誕生し、第一期生71人のうち19人がシニア金型マスターに認定されている。シニア金型マスターは金型技術者として優れているだけでなく、「金型産業の発展」というより広い視野・意識を持って活動する人物だ。ここでは、金型産業を支える3人のシニア金型マスターを紹介する。

## 米での経験、成長後押し

ナガラ

武原謙二さん



武原謙二副社長はプレス金型大手のナガラを経営面、技術面の両面でけん引する。学生時代は語学や音楽に打ち込み、金型とは縁のない環境で過ごした。

今では、金型マスターだが「どちらかと言うと、手先は不器用だった」（武原副社長）

と振り返る。入社当初はモデル做い加工が主流。機械加工された金型をサンダーで削り、磨き作業を繰り返す。仕上りを自慢したい

「一心で1時間も忘れて磨く環境が整っていた」（武原副社長）

取組み、趣味同然に。武原副社長がマネジという。現場には、創業メンツにも関わるよう。当時からの成長を。品管管理（QC）活動。教在籍しており、腕を本格化した頃から。

日刊工業新聞（2020・11・25）に  
シニア金型マスターとして、  
取締役副社長の武原謙二が  
掲載されました。

先輩技術者たちは管理職に登用されており、デスクワークに四苦八苦する姿を見て「手助けできるのは自分しかない」と奮起。表計算ソフトの使い方を習得して、QC関連書類を任せていった。

同社が日系自動車メーカーの米国工場へ金型納入を開始した1996年、現地へ技術担当として派遣された。念願の海外で初めて、他社が納入した金型を見ることができ、自動車メーカーの金型技術者とも技術交流できた。こうした経験が、さらに成長を後押ししたという。

「みせる」が武原副社長の信条だ。初めての受注した金型や難しいケースでは自らが率先して取り組む。ある程度の道筋が分いたら部下に引き継ぐ。「一度、自分でやってみないと部下の苦労も分からない」と

【企業メモ】  
▽事業内容 Ⅱ プレス金型製造  
▽所在地 Ⅱ 名古屋市中川区小本町1-21  
▽社長 Ⅱ 早瀬隆士  
▽電話 Ⅱ 052-362-6066  
▽資本金 Ⅱ 2億円  
▽従業員数 Ⅱ 120人  
▽設立 Ⅱ 1979年10月

同日、当社の広告も掲載されました。

**プレス金型製造**

リバーエンジニアリング  
CAE解析、工程設計  
金型設計  
各種機加工  
マシニング、ワイヤーカット、レーザー加工  
社上げ請負業務（国内・国外）  
設計・機加工・仕上のみの仕事でも承ります！！

株式会社 ナガラ <http://nagara.gr.jp/>

本社 〒454-0826 名古屋市中川区小本町1-21 TEL 052-362-6066  
三重工場 〒511-0118 三重県桑名市多度町御次野興ノ谷 1453-2 TEL 0594-48-5577